

ナノハナの種まきと珍しいクリ

21日、区立井草森公園（井草4-12-1・電話5310-4515）では、近隣の保育園児など150名の力を借りて、ナノハナの種まきを行いました。ナノハナは、来場者に春らしさを感じてもらおうと、公園の一角で栽培しているもので、来年の2月下旬から3月上旬に見頃となります。また、公園事務所には、園内で実った棘なしクリが展示され来場者を驚かせていました。

21日10時30分、区立井草森公園には近隣の5つの公立・私立保育園の園児が150名ほど集まりました。公園事務所が声を掛け、毎年恒例のナノハナの種まきです。台風16号の接近で開催も危ぶまれましたが、大きな影響もなく、用意した花壇は適度な湿り気があり、種まき後の水遣りが不要となりました。



ナノハナは、連作障害が出やすい植物です。連作障害は、同じ品種を毎年栽培することで、土壤にその植物に影響を及ぼす病害虫が増殖したり、生育に必要な土壤の養分のバランスが崩れて、植物が育たなくなります。そのため、井草森公園でも1年ごとに栽培場所を変えています。今年は、公園事務所前の250㎡ほどの花壇です。

園児たちは、公園職員から手のひらに直径2mmほどのナノハナの種を20粒ほど受け取ると、「きれいに咲いてね」と声を掛けて花壇にばら撒きました。ナノハナは、発芽率が高く、2週間ほど芽を出し、年明けには50cmほどに成長。2月下旬から3月上旬には春らしい花を咲かせます。

一方、公園内には秋らしい植物も実っていました。それは、秋の味覚の代表とも言えるクリです。ただし、15本ほど植えられているクリの木の中に、1本だけ棘なしのクリがあります。棘（イガ）が退化しているもので、初めて見る人は、これがクリとは思わないそうです。クリの木は、イガで利用者がけがをする心配があるため、公園の植栽にはあまり利用されません。これらの木も、資材などが置かれている管理スペースに植えられています。そのため、立派なイガを持つ普通のクリとともに、公園事務所で来場者に秋を感じてもらえるよう展示を行っています。



【報道機関問い合わせ先】

都市整備部北公園事務所 TEL：3396-5261